

2016年7月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。公共投資は下げ止まっていますが、個人消費が依然盛り上がりや欠けています。一方、雇用環境は改善傾向が続いています。観光は外国人入込みの勢いが一頃に比べると弱くなっているようですが、全体としてなお堅調を維持しているとみています。このため、道北地域の景気は、基調的には持ち直しの方向にあるとみています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、6月は前年比▲0.5%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。もっとも、各店一様に減少している訳ではなく、売上を伸ばしている先もあります。天候要因（低温、雨が多かった）が響いたという指摘もあります。
- 6月の新車登録台数は、前年比+3.1%でした。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は前年比+7.8%、「軽自動車」は同▲6.6%でした。軽自動車以外の自動車の売行きは比較的順調のようです。「軽自動車」は、4月に16か月振りにマイナスから脱出したのですが、5月に引続いてマイナスでした。燃費データ不正事件の影響が出ているようです。

■観光の動向

- 6月の観光は、前年比マイナスのデータが多かったです。ホテル・旅館宿泊者数は、前年比▲3.7%、市内のホテルの稼働率は、88.3%と高水準ではありますが、90%を超えた昨年の水準（90.7%）を下回りました。

各地観光は、ウトロ温泉が前年比+7.0%、利尻・礼文フェリーが同+2.3%と前年を上回りましたが、旭山動物園が同▲7.8%、層雲峡地区が同▲11.5%、博物館網走監獄が同▲3.5%と前年を下回りました。

空港旅客数（道北4空港合計）は、前年就航していた一部路線がなくなったこともあって、前年比▲3.4%（旭川空港は同▲4.0%）でした。国際線利用客数も、同▲13.9%でした。

こうした前年割れの動きが一時的なものなのか否かは、もう少し様子を見て判断する必要があると思います。実際、外国人観光客の動向について観光業者の方に伺うと、依然好調な状況が続いているとの声もある一方、一頃の勢いはなくなっているとする声も聞かれています。現在は、観光シーズンのピークでもあり、依然高い水準の入込みが続いていますので、全体としてなお堅調な状態が持続しているものと判断していますが、先行きの動向に注視したいと思っています。

■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局の合計で6月は前年比▲21.5%と前年実績をかなり下回る数字でした。もっとも、4~6月の累計で見ると、同▲3.3%と小幅の減少にとどまっています。建設業者の方に伺うと、前年度補正予算分も含め、各社とも相応の受注は確保できているとのことですが、ただ、夏場まではともかく秋以降に仕事が少なくなることを心配する向きもあり、補正予算に期待する声が出始めています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。5月の有効求人倍率は、旭川が1.00倍（前年0.93倍）、稚内が0.97倍（同0.83倍）、北見が0.91倍（同0.92倍）、網走が0.97倍（同0.88倍）となっており、引続き高水準で推移しています。新規求人数も、全体で前年比+

5.5%と4か月連続で前年を上回っています（旭川では、同+7.4%と8か月連続の増加）。

■今後のポイント

- 7月1日に公表した短観では、業況判断D.I.は+8と前回（+2）比改善しました。これは全国短観のD.I.が前回比若干悪化したのと対照的な動きとなっています。全国ベースでの景気が円高や新興国経済の減速の影響を受けているのに比べて、当地ではそうした影響が少ないことによるものと思われます。2015年度の経常利益は7割の増益でした。
- その一方で、設備投資は、2015年度が大幅減少となった後、2016年度も今のところ前年度比3割弱の減少の計画となっており、やや冴えない状況となっています。
- 今後の道北地域の景気に関しては、前述のとおり観光の動向に注視するほか、設備投資の動向に着目していきたいと考えています。また、当地で比較的ウエイトの大きい建設関連業の景況の観点から、あわせて補正予算の帰趨もキーになると思います。

以 上